

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200531		
法人名	(株)パラディ		
事業所名	グループホーム長寿の里相知		
所在地	佐賀県唐津市相知町黒岩518-2		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の明るく楽しく健康をモットーに、利用者様のあれがしたいやこれがしたい等の要望はもちろんのこと、利用者様の気持ちや思いも実現できるようにスタッフ全員で話し合い取り組んでおります。グループホームというゆったりとした雰囲気の中で、一人一人の生活のペースに合わせた支援ができるよう職員一同心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の郊外で緑豊かな環境に位置した、のどかなホームである。「明るく、楽しく、健康で笑顔のある生活を」との理念のもと、入居者の思いや理念に沿った支援がなされている。2棟からなるグループホームのリビングは天井が高く明るい雰囲気がある。季節に合った飾り付けや食事の提供がなされ、四季を楽しむ工夫がなされている。地域の中のホームとして積極的に関わり、地域の中で役割を模索する動きがみられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に、スタッフ一同で理念の唱和を行うようにしています。理念に基づいた介護が出来るようミーティングや会議で話し合いを行っています。	理念を玄関、事務室、共有スペースに掲げ、朝礼の際に唱和がされている。理念に基づいた支援ができるよう、会議やミーティングで話し合いがされている。入居者に寄りそうことで会話が生まれ、理念が実現できるように努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの参加や小学校、保育園の慰問を積極的に取り入れ、交流を大事にしています。暖かい日には近隣を散歩し近所の方との挨拶など接する機会があります。	小学生の慰問やボランティアの受け入れなど、交流がなされている。しかし、地域の人々との交流がやや少ないため、今年の夏祭りは若い職員に任せ、内容を変え、チラシを持って案内に回り、好評であった。また、地域の中のホームの役割を検討中であるなど、新しい動きもみられる。	今後とも、地域の中のホームとして、地域の人々との関わりを深めることで、更なる交流がもてることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、認知症に関するお話や支援の方法をお話しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議などを通して、認知症に関するお話や支援の方法、地域の現状などを考慮して私たちが出来る事などを検討しています。	年に6回開催され、出された意見や提案は会議等で検討し実践するようにしている。区長から地域の一人暮らし高齢者の支援についての相談を受ける等、相互に情報交換ができる場とされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、市の職員の方に参加して頂き、ホームの現状や利用者さまの現状など意見交換を行っています。また、TELや市役所へ行き相談にも乗って頂いています。	入居状況の報告、相談などを通じて良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外の玄関施錠を職員全員に周知してもらい、実践しております。またやむを得ない場合などのマニュアル、プロセスなども整備し、会議などで話し合いを行っています。	現在、拘束は行われていない。玄関の施錠は夜間のみで、基本的に身体拘束を行わないが、やむを得ない場合はマニュアルに沿った対応を行うと同時に、身体拘束に頼らないケアについても検討をされている。外部の研修に参加する機会もあり、伝達研修等を通して、職員間で共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員ともに研修に行き、学んだ情報は勉強会として、職員全員に共有できるように行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修などで学ぶ機会があるが職員は研修なども少なく、勉強会などもまだ出来ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結には可能な限り利用者様にも参加して頂き十分な説明を行っています。改定の際、家族様に対しては電話連絡だけではなく文書での署名、捺印を行い不安や疑問があれば十分な説明を行い理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際には利用者様の状態をお話し、意見交換を行い運営推進会議においても家族様の参加を促し意見交換の場を作っております。	入居者からは、仕草や表情から気持ちを汲み取り、家族からは面会時や電話で意見や要望を聞かれています。ミーティングで報告し対応について職員で話し合いがなされ実行されることで、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングにて意見や提案を聞く機会を作っています。かつ、話しやすい雰囲気心がけています。	ミーティングや申し送りの際に職員の意見を聞いており、話しやすい雰囲気を心掛け、無口な職員には発言を促すようにしている。出た意見については、必要に応じて職員間で共有し改善に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度内における、就業実績・人事考課を行い給与・賞与・正規雇用など行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を月に一度実施し、他ホーム(佐志)と合同で研修を行っています。また、日々の業務内においても、個人の力量・能力に合わせ指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間での交流やグループホーム連絡会の参加など内外で同業の方との交流する機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてすぐの段階ではなるべく管理者、職員にて困惑されないよう対応しています。なるべくいままでの生活と違いがないよう聞き取り行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時と十分な時間を費やし聞き取りを行っています。利用者様本人から聞けない部分も多いので重要視しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応では、利用者様本人と家族様の意見を考慮し、優先順位を見極め必要な支援を選定しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	仕事、業務という感覚ではなく、共に生活していく中で何が必要なかというところに重点をおき、「その人らしさ」を職員全員で探していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間に制限はなく、いつでもお会いできるよう配慮(双方に迷惑をかけないように)しています。電話や手紙などもできるようこちらからも声かけし配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの散髪屋、美容院、買い物をされていた場所など、出来るだけ本人さんの今まで利用されてきた場所を活用するようにしています。	馴染みの神社への初詣や、行きつけの美容院、理髪店、入居者の好きな喫茶店等の外出支援がなされている。また、知人や友人の訪問の際には、次回につながるような呼びかけをされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度など考慮し利用者様の席の配置など考慮しています。共同作業が出来る方などは一緒に作業して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、他ホーム、病院とも連携を取りながら何かあれば協力し対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望があれば出来る事はすぐに実践しております。また、難しい方においても職員全員で会議やミーティングにて話し合い実践しております。	入居者に寄りそうことで、思いや意向を汲み取るよう努められている。困難な入居者に関しては、家族から生活歴を聞いたり、表情や仕草など日々の観察の中から把握するように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけこれまでと変わりのない生活が出来よう様支援する為にも、利用者様、家族様より十分な聞き取り等を行ったりその方の一日のリズムがあれば、それを崩さないよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人一人の出来る事を会議やミーティングで話し合い実践しています。(洗濯物たたみ、野菜の皮むきなど)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を第一に尊重し、利用者様担当の職員のモニタリング、ケアマネージャー、管理者、家族にて担当者会議を行い介護計画に反映しています。また、外部の病院などの主治医の意見などにも配慮しております。	家族や主治医の意見を聞き、3カ月毎または状態変化に応じて介護計画が更新されている。サービス内容の記載は具体的でわかりやすいものとなっている。しかし、サービス内容についてのモニタリング評価は十分とはいえない。	サービス内容に沿ったモニタリングをすることで具体的な評価となり、より充実した介護計画となることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ミーティングを行い利用者様に関しての話し合いを行っています。職員間での情報共有において、なるべく全員「分かっている」という状態を作っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外食や散歩、何かしたいという提案は、出来るだけ柔軟に対応出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りやイベントを通し近隣住民の方々に利用者様の顔を覚えて頂き散歩や離設時協力をお願いしています。また、本人の通いなれた病院や友人の方の元へドライブなどを通し、以前の暮らしをたのしめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人が以前よりかかりつけだった病院を第一候補として受診支援をおこなっています。	希望するかかりつけ医を継続されている入居者がほとんどである。他科受診についても、適切な医療が受けられるよう、送迎などホームからの支援を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	只今看護職不在の為、病院の主治医、看護師との連携をとり、適切な受診、治療が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際速やかに家族に連絡し、入院期間が基本三カ月で退去となるが、退院の期間が決定している際は延長する事を伝えます。また、面会の際ナース、Drからの情報も必要あれば伝えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者はおられないがホームの方針として家族の意向に沿った対応を行います。かかりつけ医の看取りに対しての医療方針に協力します。実際事例が発生した場合利用者に合った介護について勉強会を行っていきます。	段階を追う中で、医師からの説明を受けることができ、家族、ホームと方針を共有し、医療面と生活面から入居者を支えられている。緊急時の対応など、外部研修に参加し学ぶ機会をつくられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が講師となり、緊急時の対応の勉強会を行って職員全員の周知を図っています。外部研修などがある時は職員にも参加してもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施しております。年一回必ず夜間想定を行い、全職員が対応出来るよう行っています。	消防署の立会いのもと、年2回の訓練を実施されている。夜間想定訓練に夜間専任職員も参加されている。しかし、地域住民や消防団等の参加は無い等、地域との連携は十分とはいえない。	消防団と交流の機会を持たれているが、訓練参加への呼びかけや、地域と連携した避難方法を検討するなど、更なる地域の協力体制の構築がなされることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や声掛けの際、決めつけや羞恥心への配慮を行っています。また、本人の意見を尊重し、否定のない介護を目指しています。	職員一人ひとりが入居者を自己判断で決めつけず、話し合っで実行されている。言葉遣いにも注意をしている。また、重要書類等の記録については事務所で保管をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望、要望に沿い家族様に協力をして頂き実現できるよう努めています。身体に危険がないよう配慮し些細な事から対応しています。(飲酒、喫煙、ドライブ、食事など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、まず声かけし本人の気持ちに沿って介護をしています。入浴の時間や食事の時間など全員一緒ではなく個人の気持ちに沿って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備の際、可能な限り本人に選んでいただき対応しています。爪切りや髭剃りにおいても本人に出掛ける事や面会があることを伝え少しでもその人らしい身だしなみ行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のADLに合わせ素材の皮むきや切る事をして頂いています。また、食後の皿洗いなど出来る方は声かけし無理のない範囲手伝って頂いています。	献立には入居者の要望を取り入れ、ビールなどの嗜好品も好みや体調に応じて柔軟に対応をされている。また、料理の下ごしらえや後片付けなど、できることは入居者も手伝われている。また、行事では入居者の希望や季節に応じた食事の提供がなされている。お弁当を持っての花見や外食など、楽しむことができる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた摂取量はもちろんのこと、風邪や体調不良などある時は別メニューで対応し少しでも食べて頂けるよう努力しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に二回の中島歯科往診にて口腔内の清潔保持に努めています。食事後は、その方に合った口腔ケアが出来る様指導もして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記載されている情報を基に会議やミーティングを通して職員全員で話し合い、その方に合った排泄の支援を行っています。	排泄チェック表をもとに、一人ひとりのパターンを把握し、入居者に合わせた声掛けや誘導をすることで排泄の自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて利用者様の排泄状況を確認し排便が出ない状況が続いた際下剤の調整やまた、動ける方は軽い運動をして頂いたり、トイレでの腹部マッサージを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様希望に沿った時間帯に入浴出来る様配慮しています。あとは利用者様の体調などにも配慮し支援しています。	夏場は週4回、冬場は週2回の入浴をされている。夕方の入浴が可能など、順番や時間についても希望に応じられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、入眠できるよう日中は起きて頂く事を基本に夜間寝る前には、暖かい物を出しリラククスできるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関して、勉強会やミーティングを通して薬への理解を促しています。重篤な副作用がある場合は、周知徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の手伝いや、本人の意向に合わせて外出や屋外への散歩を行っています。趣味や得意とする事を聞きだし活用しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、随時対応しています。また、認知症の為、訴えが出来ない方も様子を見て屋外へ外出や散歩を行っています。	暖かい日の散歩や全員での花見、外食など、入居者の希望に応じた外出支援がされている。また、散歩やドライブ、食材の買い出しなど、一緒に出掛ける機会づくりをされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診やドライブの際、預かったお金から支払いをして頂いています。可能な方は、自分で金銭を持たれていますが紛失の恐れある場合は、管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば、随時対応しています。月に一度の便りにも、本人様の情報や状況を記入し送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節やイベントに合わせて設え、環境整備として掃除の徹底を行っています。転倒の無いよう空間をとり車いすへの配慮も行っています。	白を基調とした明るいリビングは、天井が高く解放感がある。多くの場所に温度計があり、働く職員の体感温度に感わされないように入居者の適正温度を維持する配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各棟の端での日向ぼっこや自室で過ごして頂き、満足されるまで、そこで過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは基本なんでも可能としています。寝具・茶碗・仏壇・タンスなど	タンス、仏壇、冷蔵庫、写真など馴染みのものが持ち込まれている。ろうそく等の火気以外は持ち込みは自由であり、安心できる居室作りに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部の設備は、特別な物はありませんが利用者様の状況に合わせてポータブルトイレの設置や歩行訓練など出来る様配慮しています。手すりの活用等		